

令和元年度第4回都市計画マスタープラン策定検討部会 会議録

1. 会議の年月日、開閉時刻及び場所

- (1) 会議の年月日 令和2年3月31日(火)
- (2) 開閉時刻 午後1時30分から午後4時
- (3) 場 所 市役所4階401・402会議室

2. 委員の出欠

(1) 出席者

(委 員) 嘉名部会長・松中副部会長・東委員・佐藤委員・田中委員・森岡委員
黒部委員・松尾委員

(事 務 局) 北田都市整備部長・有山都市計画課長・内蔵都市計画課課長補佐
浜田都市計画課主幹・南都市計画課技師・岩川都市計画課事務員
株式会社地域計画建築研究所 坂井・橋本・中井・長谷川

(2) 欠席者

荒川委員

3. 会議の公開・非公開の別 公開

4. 傍聴者数 無

5. 配布資料

- (1) 会議次第
- (2) 資料1-1 「都市計画マスタープランの構造図(概略)」
- (3) 資料1-2 「現行マスタープランからの変更点と計画の体系(案)」
- (4) 資料2 「都市づくりの課題を踏まえた目標と戦略方針について」
- (5) 資料3 「地区別懇談会の開催について」
- (6) 都市計画マスタープラン策定に係るスケジュール(予定)

6. 次第

- (1) 開会
- (2) 次期都市計画マスタープランの体系について
- (3) 都市づくりの課題を踏まえた目標と戦略方針について
- (4) 地区別懇談会の開催について
- (5) 閉会

7. 調査検討内容等

(1) 次第 2 次期都市計画マスタープランの体系について

- ・事務局から説明（資料 1-1、1-2）
- ・意見等

部会長 ここまでの説明で何かご質問等あればいただきたい。現行の都市計画マスタープランと次期都市計画マスタープランの構造・構成の説明であったがどうか。

次期都市計画マスタープランでは、2020 年度までの計画が既があり、これを引き継いでいくものもある。一方でこれからの 10 年間では、人口減少や高齢化、オールドタウン問題など様々な課題が出てくることが予想され、今までと同じ方法では対応できない課題もある。そこは、方向性という形で浮き立たせていく。また、より詳細な計画にしていくことも次期都市計画マスタープランの特徴である。

おそらく都市計画の範疇から広がってしまっている部分もある。それについては、地域の担い手との連携や庁内での他部局との連携も必要になる。このような連携についても次期都市計画マスタープランでは、取り入れていくということで、前回のものとは違いがはっきりと分かるかと思う。

前回までの検討部会の皆さんの意見も反映されており、この中に織り込んでいけると考えている。

(2) 次第 3 都市づくりの課題を踏まえた目標と戦略方針について

- ・事務局から説明（資料 2）
- ・意見等

部会長 都市づくりの課題 6 項目、都市づくりの目標 3 項目、都市づくりの戦略方針 3 項目についての説明であった。都市づくりの戦略方針については、今後重点的に取り組むことと、前回の都市計画マスタープランでは取り組まれてい

ないことを際立たせる役割があり、そのような方針が3つ挙げられている。まずは、6項目ある都市づくりの課題についてご意見をいただきたい。

委員 6つ課題について、最後の「住み続けられる都市環境づくりが必要」とあるが、これは生駒市内で「住み続けられる」ということか、それとも各地域で、ということか。

事務局 生駒市内でということ考えている。

委員 そうであれば、ライフステージに応じて生駒市内の様々な地域で住み替えることも良いということか。

事務局 同じ生活圏の中で住み替えることが望ましいと考えている。

部会長 今、事務局が説明したようなことが、この文章から読みとることが出来ないという指摘であると思う。生活圏の中で住み替えるということが分かるようにしてほしい。

委員 まず、総合計画を踏まえた背景について、これは様々な人がそれぞれの価値観で活動できるようにするということを述べるための背景であると思うが、生駒市の特徴として、地域ごとの入居時期の違いから世代分断が起きているということが考えられる。それぞれの人がそれぞれらしく、という方向性もあるが、地域に落とし込んだ際に、世代ごとに違う価値観の中で一緒に取り組むことの必要性を考えると、課題や目標設定の際にもそのことを意識した方が良いのではないか。次の議論にもなるが、分野に応じた都市づくり、という発想よりも、分野横断的、複合的といった発想で、地域の単位で考える際には、一体的に取り組んでいくという流れを示した方が良い。それぞれが、それぞれの価値観で選択できる、で終わってしまうよりも、コミュニティ単位のあり方を考えた時に、世代間で取り組むことや、地域包括ケアについて高齢者だけでなく子供や障がい者も地域の中で住み続けられるという方向性が明確になり、それにつながる前振りのようなものが、背景や課題に見えてくる方が良い。それぞれの人が、それぞれ思うようにというところは読み取れるが、それぞれのニーズをコミュニティ単位でどう対応していくのか、世代をどう統合していくのかという話が背景にも出てくると良いのではないか。

部会長 委員の意見について、P5の「多様な都市活動が実現できる環境をつくる必要がある」で、多様な価値観を持った人がいる、ということまでは書かれているがキーワードとして「つながる」「連携する」なども出すべきではないかということではないか。世代、エリア、属性も多様であるので、委員の意見のように、課題の5番を膨らませると良いのではないかと思う。

委員 課題の1つ目で、「活力ある」とあるが、一般的にはまちなか居住という話も

あり、他から企業を誘致してくることだけが活性化ではない。にぎわい創出が、企業、事業所の誘致しかないように読み取れてしまう。生駒ならではのものがあるのではないか。

部会長 後の都市構造の拠点の話とも関係している。もちろん、高山は拠点として出てくると思うが、出口をもう少し考えてほしい。

委員 P11 の目標について、「多様な」、「ニーズに応じた」とあり、様々なことに柔軟に対応していくということは非常に重要なことであるが、焦点が見えなくなっている。根本的な、安全、災害への対応、医療崩壊など、そもそも人間が生きていくために、都市が果たすべき役割というものは非常に大きい。前回の委員会からも、都市に対して不安に思うことも変化しつつあるのではないかとと思う。今の状況を踏まえ、どのような課題があるかということも見直す必要がある。

P7 について、「主体みんなで共有」「拠り所」とあるが、これは都市計画に関する会議という意味合いだけでなく、キーパーソンをつくる・みつけるという視点としても重要である。取組をしても連携をしなければ、実際の都市計画には活かされてこないの、その辺りの連携も重要になると思う。

部会長 安心安全については私も思うところがあった。事務局の思いとして、前回の都市計画マスタープランは基本的に継承し、新しい考えを際立たせたいということを書かれていると思うが、都市づくりの課題として、安心安全が挙げられていないと不安に感じる方もいるのではないかとと思う。位置づけとして、課題として挙げているものだけなのか、あるいは、特徴的なものを浮き立たせているということなのか、整理してほしい。安心安全を入れるか入れないかというのは、工夫の余地がある。私の意見としては、入れてはどうかと思っている。

副部会長 資料1で全体の構造が示されており、地域別や分野別の考え方が後に出てくるということを考えた時に、課題では生駒市全体の事が書かれているが、地域の中身のことが課題として見えてこない。

P9 の戦略方針で都市空間の再編の話が出てくるが、空間的な課題が見えてこない。先ほど出口という話があったが、出口をもう少し意識して課題を整理した方がよい。

安心安全の文脈で言うと、環境問題やエネルギー問題は今までで言われ続けている課題もある。そのようなものを書くのか書かないのか。一般的に言われている都市づくりの課題を含めても良いのではないかとと思う。

部会長 前半の現行の都市計画マスタープランと次期都市計画マスタープランの違いの説明は分かりやすかった。例えば、都市づくりの方向性をはっきりと示す

ことが必要、より丁寧に詳細に見ていくことが必要、多様化するので連携やつながりが重要、ということは非常に理解できたが、これらが課題に出てきていない。つながりが必要、詳細に見ていかなければいけない、といったことを課題に入れてはどうか。

また、課題と言うからには、基本的なことにも対応しておいてはどうかと思う。昨今では、新型コロナウイルスの話や、高齢化に対してのバリアフリーが必要という話もある。安心安全な都市のあり方の考え方も時代と共に変化している。その辺りは変化に対応していく必要がある。もちろん今までも取り組みはあるが、世の中の流れや市民の年齢の変化に対応して変えなければいけないこともある。それだけを浮き立たせて書くということでも良いかもしれない。キーワードとして安心安全はある方が良いのではないかと思う。

委員 都市マスの構成としては分かりやすい。しかし、具体的な部分で、実際の生駒市の現状はどのようなものなのかがまだ分からない。

生駒市は、奈良県の中で大阪に一番近い。これは特徴である。このような特徴が都市計画マスタープランの中で出てくると良いのではないか。

国道 168 号線を通っていると、生駒市内に入ると店舗が少なくなるように感じる。個人的な意見であるが、この理由は地代が高いからではないか。このような点を考慮して、いかに国道沿いに店舗を立地させていくかということが必要ではないか。

11 月に総合防災訓練を実施するが、これは南海トラフ地震ではなく、生駒断層帯の直下型地震を想定している。生駒市への南海トラフ地震の影響は比較的小さい。逆に言えば、東南海地震に強いということである。

駅前を中心街はすぐに坂になってしまうため狭いということがある。

このような、生駒市の強い部分、弱い部分をしっかりと捉えた目標設定をしなければいけない。

部会長 今の話は、例えば P4 の「歴史・文化やみどりなど資源を活かしたまちづくりが必要」「地域に応じた豊かな暮らしを実現できるようにすることが必要」など、書いていることは間違いではないが、もう少し地域性や立地特性に応じてきめ細やかに考える必要があるのではないか、ということではないか。

例えば、土地利用を明確に分けるということは、土地の役割を明確にするということである。しかし、そのような方法では、地域性や個性は出てこない。そうではなく、立地性や場所性を読み取っていくことが必要である。詳細にみていかなければいけないという話は始めにも出ていたが、それが方針に反映されていない。もう少し生駒らしさを取り入れていく必要がある。委員の指摘

も、もっと際立たせる必要があるということである。もう少し工夫してほしい。

委員 実際に私たちが現地でまちづくりをしようと思った際に、考えていることがあまり入っていないように感じる。自分たちで進めていかなければいけないのかという感じがする。私たちの地域は、ニュータウンとして開発され、その当時入居した人たちが、今は60代、70代となり、高齢者の多い地域になっている。丘陵地で坂が多いため、交通網の整備や買い物の問題など、要望も多く出ている。そのような問題をどうしていくのか。安心安全の話も出たが、災害にもどう対応していくのか。このようなことを地域で考えていこうとしているが、これらは全体ではどのような位置付けになるのか。今の話がどこにも載っていないように感じる。例えば、「彩のある暮らし」も何のことかわからない。ピンとこないというのが私の印象である。

部会長 先ほどの事務局の説明であると、地域別に細かく見る、地域まちづくり書、ミライ会議、という取り組みをして、地域主体で進めていくことが重要であるということであったと思うが、それが方針に出てきていない。

委員 ミライ会議をあすか野で行なっているということは知っているが、住民が5000人ほどの地域で実際に会議に出ているのは90人である。その人数で地域全体を考えていくのかと思ってしまった。ミライ会議そのものをどう進めていくか考えることも重要であるが、地域の人にどう参加してもらうのかということも考えなければいけない。そもそもミライ会議はなぜ必要なのか、地域のまちづくりにどうつながっていくのかが分からない。

委員 先ほどの説明で駅前に住み替えるという話があったが、私たちは、今住んでいる地域を良くしていきたいと思っている。駅前にマンションを建てるのではなく、今住んでいる地域を良くしてほしい。地域が発展しなければ、生駒市の発展に繋がらないと考えている。駅前に住宅地開発することは、生駒全体の発展につながらない。

新たな都市計画マスタープランということで期待しているが、新しさをあまり感じられない。ミライ会議はここに書く話ではないのではないか。ミライ会議はまちおこしという感じがするので都市計画マスタープランの中に書かれると違和感がある。

委員 6つの課題について、大きな意味では納得したが、ソフト的な話ばかりで、都市づくりをしていくには、ハード的なことも必要ではないか。南地区でいえば、幹線道路の課題がある。課題の中に道路の整備の話は入れられないのか。都市をつくる基本は道路をつくることであると思う。予算が必要なので難しいかもしれないが、道路が整備されれば、自然と人が集まる可能性もある。

部会長 課題に道路整備の話が入っていないからと言って、道路整備をしないということではない。都市計画なので、道路については必ず入る。

事務局 地域の詳細な話が見えづらいということについては、その通りであると思う。ただ、分野に応じた方針については、分野別方針で示すことになっている。次回以降に議論する予定である。また、地域別方針で地域の詳細なことについても具体的に考えていく予定である。そこで詳細なことは見えてくるのではないかと思う。2章の将来都市構造で道路や駅周辺の拠点のあり方、生活圏のあり方の話をしたいと考えている。

ミライ会議について、都市計画マスタープランを考えていく上で、地域のことを理解する必要があるということで、ミライ会議を開催している。実際にあすか野では、自治会の地縁型のまちづくりで今まで取組を進めており、今でも活発な活動が見られる。そのようなことが10年後、20年後はどうなるのか、あすか野の現状はどうなっていくのかを住民の方に理解してもらい、ということが1つ目の大きな目的である。そして、それを知った上で行政や地域がどのようなことに取り組むべきか、地域のために何ができるのかを考え実行に移していただくということが2つ目。3つ目は、その先のことで、地域によって課題も違うが、それぞれ地域の魅力が必ずあるはずである。その魅力を地域自ら発信してもらい、新しい人に住んでもらう、そのようなことにつながって初めてミライ会議の目的が達成されると考えている。あすか野や萩の台に実際に入り、それぞれの地域の課題を事務局としても感じている。その出口を今回の都市計画マスタープランやまちづくり書にどう反映させていくかということを考えている。

部会長 6つの課題について、安全安心と環境については、やはり入っていた方がよい。一番気になったのは「環境」という言葉の使い方である。まず1つ目の課題で「住環境」とあり、2つ目には「環境に配慮したまちづくり」、3つ目には、「自然環境」、4つ目には「多様な環境」、5つ目には「多様な都市活動が実現できる環境」、6つ目には「都市環境」とある。それぞれの「環境」の使われ方も意味も違う。もう少し言葉の吟味をする必要がある。生駒市は環境モデル都市であるので、「環境モデル都市」の意味の「環境」という言葉をおそらくどこかで使わなければいけないのではないかと。また、環境という言葉を広く捉えすぎのような感じもする。例えば、斜面緑地に植栽をするというのは防災にも役立つ。また、それが土地利用の話にもつながり、景観や農環境の保全ということにもつながる。このように密接につながっており、そのようなことを書いてほしい。安全安心というのは防災の話だけではない。言葉をもう少し

し吟味してから資料として出してほしい。

副部会長の話とも近いが、空間像を示していただいた方が、生駒市としてどのような都市をつくりたいかが分かりやすい。都市全体の目標像を示されただけでは、どのようなまちを目指しているのか想像するのが難しい。分野別や地域別の方針がなぜ出てくるのかというのは、暮らしの単位で見た時に、暮らしのあり方を細かく見ていく必要があるということであると思う。地域に寄り添った都市づくりをしていくのであれば、その目標像は何かということを示してほしい。多様と言われると、何かをすることは分かるが、何を指すかを示さないことになる。人々の暮らしに寄り添った都市計画マスタープランにするということであれば、全体像だけではなく、その目標像を示す必要がある。

委員 都市づくりの戦略方針について、「都市空間を継続的に再編していく」とあるが、これは重要であると思う。あすか野のミライ会議を訪問して、戸建て住宅で煎茶の講習を受けた。戸建て住宅は、私的な空間であるが、ある時私的な空間が公的な空間になることがある。これは、あすか野の話ではないが、小学校などの公的なものもある時は避難所になり、市民活動の場にもなる。今までのような明確に分けられた土地利用ではなく、「私」と「公」の中間的な「共」の部分が生駒市にも出てきたと感じた。これは様々な人が、多様な活動をしてきており、「共」の空間をつくるためには、皆の協力が必要である。このようなことで初めて持続可能なまちづくりができるのではないか。それを踏まえると、3つの戦略方針をつなげたストーリーができるのではないか。

付属書について、ミライ会議について書かれるのだと思うが、生駒市で「共」の空間をつくるために皆で活動しているということが示せるのではないか。建物とライフステージとの関係だけではなく、例えば、地域の公共交通についても、普通であれば行政が行うものだという考えがあるかもしれないが、運転手不足等でサービスが提供できないということもあり、民で協議会をつくり、地域公共交通のサービスを提供している地域もある。公と私・民が協働でまちをつくるというスタイルを如何につくるかというストーリーが、今回示されたものの中に入っているのではないかと思っている。

部会長 今の委員の指摘は、多様な主体の活動を活性化していく、という表現をもう少し検討した方が良いということか。

委員 「都市空間を再編していく」という部分がキーワードになるのではないかと考えており、例えば、ニュータウンであれば戸建て住宅のみと言われるが、戸建て住宅は私的な空間のみではなく、公的な空間になることもある。そのために

は、活動を見えるようにする、活性化させるということが次の段階になるのではないか。地域によっても「共」の空間の捉え方は違う。例えば、昔ながらの集落であれば、「共」の空間は比較的多いエリアではあるが、活動することによって、さらにそれが魅力的になる、ということもあるのではないかと感じている。

委員 生駒市の道路計画を策定する際に、高山工区しかないのかという議論をしてきた。そしてようやく北部、南部が出てきた。生駒市の全体的な発展は、北部や南部などそれぞれのことを考えなければいけない。表現方法は苦労されていると思うが、固有名詞として出ているものが少ない。

部会長 課題の話に戻るが、「既存ストックを活かしたまちづくり」とあり、間違いではないが、もう少し表現を考えてほしい。生駒市は今までは田畑をまちにしてきたという経緯があるが、今はそうではない。出来上がっているまちをどのように再編集していくか、というのが大きな課題である。その中でストックを活用するという話もあり、出来上がっているまちの良い部分はそのまま活かし、そうでない部分は変えていくことが求められている、というような表現とした方が良いのではないかと思う。言葉遣いを丁寧に考えてほしい、というのが前半部分の課題である。

都市づくりの目標、戦略方針についても、前半の課題での言葉遣いが変わることに伴って、書き方が変わるのではないかと考えている。

P9、10に出ている例示について、委員の指摘で地域ごとに様々な活動が行われているという話もあったが、そういうものを例示として入れると良いのではないか。例えば、ミライ会議で共の動きがあるのであれば、そのような話も盛り込んでいけば良い。

委員の指摘は、P10には、高山の名前が出てきているが、他の地域にも動きがあり、それぞれの地域で特色あるまちづくりがされている、それをもう少し具体的に書くことが必要ではないかということである。副部会長の指摘にもあったが、空間像の話がない。今挙げられているのは、高山や南生駒くらいである。もう少し圏域の議論ができるようにしてほしい。病院がある、交通利便性が良い、歩いて暮らせる、などというような暮らしぶりの話があれば、それに向かった議論ができるのではないか。

例えば、「多様な動きを活性化していく」とあるが、もう少し言い切ってはどうか。活性化していくというのは手段であるので、「参加型のまちづくりを実現する」など言い切っても良いかもしれない。

委員 流れが悪いように感じた。P11の課題が目標につながっていない印象がある。

前回の都市計画マスタープランでは、課題と対応した目標が掲げられており、比較的分かりやすかった。今回の目標は、いきなり人を中心としたアウトカムな目標になっており、市民目線でということで書き換えられたのだと思うが、もう少し検討した方が良い。今までの話で出ていたような課題がどう目標につながるのかが、すっきりと整理されていると良い。その中でも歩いて暮らせるというテーマが隠れてしまっている。このテーマは昔から言われているが、生駒市では難しいというのが現状である。これをどう解決するのか、というのが非常に重要な方向性の一つではないかと思う。歩いて暮らせる、車が無くても暮らせる、といったテーマが「住み続けられる」の中に埋もれてしまっている。これからの都市構造を考える上で移動手段は重要なことであるので、それを読み取れるキーワードが出てくると良い。

戦略について、分野に応じた方針がある中で、どのように横断的、複合的に取り組むのかということは、これからの人口減少社会において重要であると思う。このような横断的、複合的に取り組むことで、まちを良いものにしていく、ということを経済的に言えるように、方針をもう一つ立てると良いのではないかと思う。

部会長 なぜ、この目標にしたのか。前回から大きく変わっている。市民の目線に立って考えたということか。

事務局 そういふことです。手段としてはどうしていくのか、ということが見えていないので、非常に分かりづらいものになってしまったのではないか。

部会長 目標と戦略方針についてはもう少し、検討の必要がある。今日の議論では、課題が定まれば良いのではないかと考えている。

「多様な」、「彩ある」、「ニーズに応じた」、というのは、要するに色々ある、ということであり、迫力が無い。「市民の様々な思いを大事にする」という一つで良いのでは無いか。今までの都市計画では、大まかにしか見ていなかったが、今回の都市計画マスタープランでは市民目線でまちづくりをしていくということは良いが、目標設定として3つなくても良いのではないか。安心安全、活力といった、課題から直接くるような目標設定があっても良いと思う。

モビリティの話も出ていたが、副部会長、どうだろうか。

副部会長 空間的な話が無ければなかなか交通の話も出てこない。資料 1-1 にある、前回のまちづくりの目標は、どのようなまちを目指すのか比較的イメージしやすく、目標を達成するためにはどのような戦略があるのかということが繋がりやすい、という印象である。今回のものは、目標としては分かりやすいが、その目標をどのように達成するのかというプロセスが分かりにくい。戦略を

見てもどうなのか、ということがある。

部会長 自分が住む家があり、学校や店舗など日常的に通う店がある、という生活圏があり、そこに主要な交通網があるというような生活像の中で考えていくということが必要である。

副部会長 資料2に将来都市構造が薄く書かれており、ここに拠点、都市施設、ネットワーク、生活圏、広域連携軸、エリア、などモビリティに関わるものが全て今回は示されていないので、議論になっていないということである。

事務局 都市構造の説明資料は作りつつあるが、今回はボリュームが大きくなってしまいうことで出していなかった。

副部会長 このような都市構造である、という前振りがなければ、都市づくりの課題や目標から空間像を読み取るのは難しい。

部会長 要するに、今までは、生駒駅周辺が一つの核であった。基本的には、核を増やしていくということではないか。生駒市の中で生活圏は一つだけで、あとは大阪に通う、ということであったのが、圏域として増やし、ネットワークでつなぐ、それを暮らしの単位として考えていく、再編集するということを出した方がよい。そうすると、モビリティや道路の整備の仕方も変わり、暮らしぶりも変わり、用途地域の指定も変わる。このようなプロセスを実現するにあたり、行政だけで行うのではなく、住民の方と話し合いながら進めていく、ということである。そのようなことがうまく進んでいるか、住民の方が満足しているかどうか、ということが目標の一つになっている。一つなら良いが、これがいくつか並べられるのは、どうかと思う。

今回の議論で足りない部分が浮かび上がったと思うので、それを追加していただけたらと思う。

委員 まずは、生駒駅の駅前を宝山寺の門前町から脱却しなければいけない。実際に、駅前はスーパーも減っているので、商店街に店舗を増やしたとしても人が来ないのではないか。例えば、北部地域の高齢化率は非常に高いので、高齢者が安心安全に暮らしやすい環境にする方が分かりやすい。もう少しイメージが湧きやすいようにしてほしい。

部会長 方針の一つに、細かく見る、地域ごとに見る、といったものが必要である。細かく見ることについては、全員賛成であるので、そのような方針を入れて欲しい。

その他意見はないか。何度も言うが、今回は、課題を詰めることができれば良いと思っている。

目標も戦略方針も3つにこだわらず、5つでも良い。課題が増えるのであれ

ば目標も増えても良い。地域別の方針をみた際に、そこにつながる目標設定がされているかどうか、確認をしてほしい。例えば、交通やモビリティにつながる方針、公共施設の再編につながる方針、参画、協働のまちづくりにつながる方針、身近な生活道路の改善につながる方針とはどのようなものか。その辺りをもう少し整理する必要がある。

前回の都市計画マスタープランにおいても目標の中に安心安全の話は出てきており、最終的には入れる必要があると考えている。前回から変わるものを際立たせながら、ベースとなる部分は引き継ぐ、それを重ね合わせて目標を設定する必要がある。戦略についてはもう少し浮き立たせても良いのでは無いかと思う。

(3) 次第4 地区別懇談会の開催について

- ・事務局から説明（資料3）
- ・意見等

部会長 進め方については、今後考えていくということで良いか。地区別で意見を吸い上げることを大事にしようということにははっきりしているので、そのような場をつくるということである。

新型コロナウイルスもその頃には収束しているという前提で、是非参加してほしい。

委員 日程は確定なのか。

事務局 日程については、会場の確保の問題もあり、3つのコミュニティセンターを抑えなければいけないということと、計画の進捗具合を見て、その時期が良いのではないかとすることで決定している。

委員 進め方の問題は、縦割りではなく横断的にしなければいけないということである。担当課だけで進めていくのはむずかしい。幅の広い人を集めなければいけない。

事務局 その辺りも含めて進め方、募集の方法を検討していきたい。

部会長 気持ちとしては、多くの人を集めて、たくさんの意見を聞きたい、逆に生駒市の取り組みも知ってもらいたいということであると思うが、100人を回すのはなかなか大変なことである。満足して帰っていただかなくてはならない。聴衆としてではなく、主体的に関わってもらえるようなプログラムを検討してほしい。

副部会長 地区別懇談会とあるが、ネット中継するならば、地区別ではなく全体ではないのか。

事務局 アンケートの結果などを共有する場合には、全体で共有するという想定である。北、中、南に分けて実施するので、それぞれの地域特性を拾えたらよいと考えているが、実施方法を含め、地域別の考えに反映できるようなプログラムを考えていきたい。

副部会長 全体で行う部分もあれば、会場ごとに行うこともあるということか。

事務局 プログラムの内容は同じである。

副部会長 会場間で議論する部分もあれば、会場ごとに議論する部分もあるということか。全体で行うのとあまり変わらないように感じた。

委員 3時間あるが、どのようなプログラムを考えているのか。最終的には満足して帰ってもらえるようなものでなければいけない。

事務局 全体で共有できることについては、共有して、あとは個々で行うという予定である。

部会長 最後の結果は共有するという事だろう。

委員 抽選とあるが、どのような基準で抽選を行うのか。例えば、生駒市の大ファンで是非参加したいという人がいるかもしれない。そのような思いは抽選で反映されるのか。申込だけでは分からない。

事務局 300名と書いているが、可能な限りは参加していただきたいと考えている。今後のまちづくりのキーパーソンとなるような人にも参加していただきたいと考えている。

うまく情報を発信しなければ300人は集まらない。もう少し内容を具体化して募集をかけなければいけない。

できるだけ参加してもらえるような仕組みや、抽選の方法などもう少し整理する必要があると考えている。

部会長 委員の意見は、人数が少なくても、質にこだわった方がよいということであると思う。

事務局でもう少し検討していただきたい。

(4) その他

- ・次回以降の開催予定について

令和2年5月19日(火)午前